

1)  $f(x) = x^4 + 6x^3 - 24x^2$ .

(1)  $f'(x) = 4x^3 + 18x^2 - 48x$   
 $= 2x(2x^2 + 9x - 24)$  ...①  
 $f''(x) = 12x^2 + 36x - 48$   
 $= 12(x+4)(x-1)$ .

よって、 $C: y = f(x)$  の凹凸を調べると次のようになる。

$x$	...	-4	...	1	...
$f''(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	∪	-512	∩	-17	∪

以上より、 $C$  の変曲点は

$(-4, -512), (1, -17)$ . ... (答)

(2) (1) の結果より  $P(1, -17)$ .

$f'(1) = -26$

であるから、 $\ell$  の方程式は

$y = -26(x-1) - 17$

すなわち

$y = -26x + 9$ . ... (答)

(3) ① より、 $f'(x) = 0$  とすると

$x = 0, \frac{-9 \pm \sqrt{273}}{4}$ .

ここで

$\alpha = \frac{-9 - \sqrt{273}}{4}, \beta = \frac{-9 + \sqrt{273}}{4}$

とおくと、 $16 < \sqrt{273} < 17$  より

$\alpha < -4 < 0 < 1 < \beta$

であり、 $f(x)$  の増減は次のようになる。

$x$	...	$\alpha$	...	0	...	$\beta$	...
$f'(x)$	-	0	+	0	-	0	+
$f(x)$	↘	極小	↗	極大	↘	極小	↗

$g(x) = -26x + 9$  とおくと

$f(x) - g(x) = x^4 + 6x^3 - 24x^2 + 26x - 9$   
 $= (x-1)^3(x+9)$

となるから

$C$  と  $\ell$  の共有点の  $x$  座標は 1 と -9

であり

$x < -9, 1 < x$  のとき

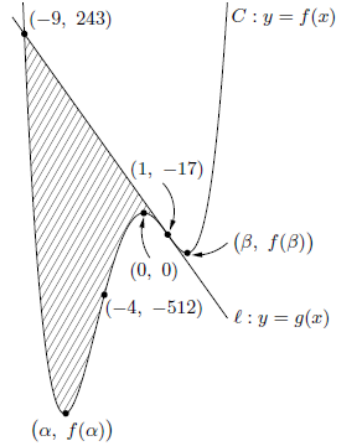
$f(x) - g(x) > 0$  つまり  $f(x) > g(x)$ ,

$-9 < x < 1$  のとき

$f(x) - g(x) < 0$  つまり  $f(x) < g(x)$

である。

以上より、 $C$  と  $\ell$  で囲まれた部分は下図の斜線部である。



図より、求める面積は

$\int_{-9}^1 \{g(x) - f(x)\} dx$   
 $= -\int_{-9}^1 (x-1)^3(x+9) dx$   
 $= -\int_{-9}^1 \{(x-1)^4 + 10(x-1)^3\} dx$   
 $= -\left[\frac{1}{5}(x-1)^5 + \frac{5}{2}(x-1)^4\right]_{-9}^1$   
 $= \frac{1}{5} \cdot (-10)^5 + \frac{5}{2} \cdot (-10)^4$   
 $= 5000$ . ... (答)

2 (1)  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  のとき

$$\begin{aligned}\vec{OP} &= \left( \frac{1}{2} \{1 - \cos \theta - \sqrt{3}(\tan \theta - \sin \theta)\}, \right. \\ &\quad \left. \frac{1}{2} \{ \sqrt{3}(1 - \cos \theta) + \tan \theta - \sin \theta \} \right), \\ \vec{OQ} &= \left( \frac{1}{2} \{1 + \cos \theta - \sqrt{3}(\tan \theta + \sin \theta)\}, \right. \\ &\quad \left. \frac{1}{2} \{ \sqrt{3}(1 + \cos \theta) + \tan \theta + \sin \theta \} \right)\end{aligned}$$

より

$$\begin{aligned}\vec{PQ} &= \vec{OQ} - \vec{OP} \\ &= \boxed{(\cos \theta - \sqrt{3} \sin \theta, \sqrt{3} \cos \theta + \sin \theta)}. \quad \dots(\text{答}) \\ \vec{OM} &= \frac{\vec{OP} + \vec{OQ}}{2} \\ &= \boxed{\left( \frac{1}{2}(1 - \sqrt{3} \tan \theta), \frac{1}{2}(\sqrt{3} + \tan \theta) \right)}. \quad \dots(\text{答})\end{aligned}$$

(2)  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  のとき, (1) の結果より

$$\vec{OM} = \frac{1}{2 \cos \theta} (\cos \theta - \sqrt{3} \sin \theta, \sqrt{3} \cos \theta + \sin \theta)$$

であるから

$$\vec{OM} = \frac{1}{2 \cos \theta} \vec{PQ}. \quad \dots \textcircled{1}$$

よって, 直線 PQ と直線 OM は平行になるか, または一致する. これと, 中点 M が直線 PQ と直線 OM の共有点であることから, 直線 PQ と直線 OM は一致し, 3 点 O, P, Q は同一直線上にある. (証明終り)

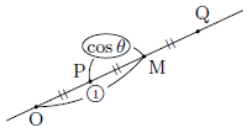
(3)  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  より  $0 < \cos \theta < 1$ . このとき, ①より

$$|\vec{OM}| : |\vec{PQ}| = 1 : 2 \cos \theta.$$

$|\vec{PM}| = \frac{1}{2} |\vec{PQ}|$  より

$$|\vec{OM}| : |\vec{PM}| = 1 : \cos \theta.$$

さらに, ①より  $\vec{PQ}$  と  $\vec{OM}$  は同じ向きであることから, 条件  $|\vec{OP}| = |\vec{PM}|$  を満たすとき 4 点 O, P, M, Q はこの順に下の図のように等間隔に並ぶ.



図より

$$\cos \theta = \frac{1}{2}.$$

$0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  より

$$\theta = \boxed{\frac{\pi}{3}}. \quad \dots(\text{答})$$

<別解>

(1)  $\tan \theta = \frac{\sin \theta}{\cos \theta}$  ( $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ ) より

$$\begin{aligned}\vec{OP} &= \frac{1 - \cos \theta}{\cos \theta} \left( \frac{1}{2} \cos \theta - \frac{\sqrt{3}}{2} \sin \theta, \frac{\sqrt{3}}{2} \cos \theta + \frac{1}{2} \sin \theta \right) \\ &= \frac{1 - \cos \theta}{\cos \theta} \left( \cos \left( \theta + \frac{\pi}{3} \right), \sin \left( \theta + \frac{\pi}{3} \right) \right).\end{aligned}$$

同様にして

$$\vec{OQ} = \frac{1 + \cos \theta}{\cos \theta} \left( \cos \left( \theta + \frac{\pi}{3} \right), \sin \left( \theta + \frac{\pi}{3} \right) \right).$$

よって

$$\vec{PQ} = \boxed{2 \left( \cos \left( \theta + \frac{\pi}{3} \right), \sin \left( \theta + \frac{\pi}{3} \right) \right)}. \quad \dots(\text{答})$$

$$\vec{OM} = \boxed{\frac{1}{\cos \theta} \left( \cos \left( \theta + \frac{\pi}{3} \right), \sin \left( \theta + \frac{\pi}{3} \right) \right)}. \quad \dots(\text{答})$$

(2)  $\vec{OP} = \frac{1 - \cos \theta}{2 \cos \theta} \vec{PQ}$

より, 3 点 O, P, Q は同一直線上にある. (証明終り)

(3)  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  より  $0 < \cos \theta < 1$ .

このとき,  $|\vec{OP}| = \frac{1 - \cos \theta}{\cos \theta}$  である. さらに

$$\vec{PM} = \frac{1}{2} \vec{PQ} = \left( \cos \left( \theta + \frac{\pi}{3} \right), \sin \left( \theta + \frac{\pi}{3} \right) \right)$$

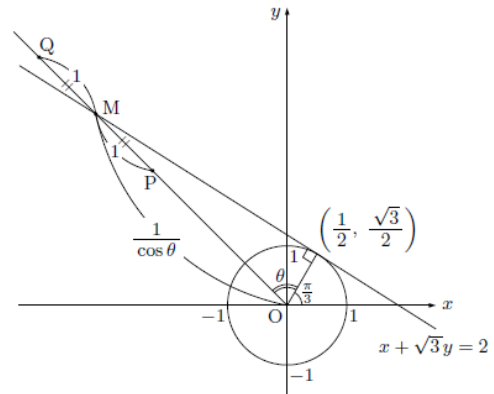
より  $|\vec{PM}| = 1$  なので,  $|\vec{OP}| = |\vec{PM}|$  のとき

$$\frac{1 - \cos \theta}{\cos \theta} = 1.$$

よって,  $\cos \theta = \frac{1}{2}$  となり,  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  より

$$\theta = \boxed{\frac{\pi}{3}}. \quad \dots(\text{答})$$

(参考)



上図のように点 M は円  $x^2 + y^2 = 1$  の  $\left( \frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2} \right)$  における接線  $x + \sqrt{3}y = 2$  上にあり, (3) では図の点 P が単位円周上にあるときの  $\theta$  を求めている.

3 カードはすべて区別して考える. 番号 1, 2, 3, 4 のカードが順に 1, 2, 3, 4 枚, 計 10 枚入っているから, カードの引き方の総数は

$$10! \text{ 通り}$$

である.

(1) 10 枚目のカードの番号が 2, 3, 4 のとき, 9 枚目までに 4 つすべての番号のカードが既に現れているので,  $A_{10}$  は起こらない. よって,  $A_{10}$  が起こるのは 10 枚目に番号 1 のカードを引くときである. 番号 1 以外の残り 9 枚のカードを 1 枚目から 9 枚目まで引く引き方は

$$9! \text{ 通り}$$

あるから,  $A_{10}$  の起こる確率は

$$\frac{9!}{10!} = \frac{1}{10}. \quad \dots(\text{答})$$

(2)  $A_9 \cap B_1$  が起こるのは, 1 枚目から 8 枚目までに 1 以外のすべての番号のカードが現れ, 9 枚目に番号 1 のカードを引くときである.

1 枚目 2 枚目                      8 枚目 9 枚目 10 枚目  
                      

番号 2, 3, 4 のカードはいずれも 2 枚以上あり, 10 枚目にどれを引いても 8 枚目までに 1 以外のすべての番号のカードが現れるので,  $A_9 \cap B_1$  が起こる.

よって, 9 枚目の番号 1 のカード以外の残り 9 枚のカードの引き方を考えると, 求める  $A_9 \cap B_1$  の起こる確率は

$$\frac{9!}{10!} = \frac{1}{10}. \quad \dots(\text{答})$$

(3)  $A_9$  が起こるとき,  $A_9 \cap B_1$  以外の  $A_9$  の事象, つまり, 9 枚目に 1 以外の番号のカードを引いて, そこで, 初めて 4 つすべての番号が現れるときを考える.

番号 3, 4 のカードはいずれも 3 枚以上あり, 9 枚目がどちらの番号のときも 8 枚目までに 4 つすべての番号が現れるので,  $A_9$  は起こらない.

よって, 9 枚目のカードの番号は 2 である.

1 枚目 2 枚目                      8 枚目 9 枚目 10 枚目  
                      

このとき, さらに, 10 枚目のカードの番号が 3 または 4 ならば, 1 枚目から 8 枚目まで引く中のどこかで, すべての番号が現れることになり,  $A_9$  は起こらない.

よって, 10 枚目のカードの番号も 2 であり, このとき  $A_9 \cap B_2$  が起こる.

1 枚目 2 枚目                      8 枚目 9 枚目 10 枚目  
                      

したがって,  $A_9 \cap B_2$  の起こる確率は, 9 枚目と 10 枚目の番号 2 のカードの引き方と, 残り 8 枚のカードの 1 枚目から 8 枚目までの引き方を考えて

$$\frac{8! \cdot 2}{10!} = \frac{1}{45}.$$

また

$$A_9 = (A_9 \cap B_1) \cup (A_9 \cap B_2)$$

の起こる確率は, (2) の結果と合わせて

$$\frac{1}{10} + \frac{1}{45} = \frac{11}{90}.$$

以上より, 求める条件付き確率は

$$\frac{\frac{1}{10} + \frac{1}{45}}{\frac{11}{90}} = \frac{9}{11}. \quad \dots(\text{答})$$

4 (1) 整数  $m$  は適当な整数  $l$  を用いて

$$m = 2l \text{ または } m = 2l + 1$$

のいずれかの形で表せる.

- $m = 2l$  のとき

$$m^2 = 4l^2. \quad \dots \textcircled{1}$$

- $m = 2l + 1$  のとき

$$m^2 = 4l(l + 1) + 1. \quad \dots \textcircled{2}$$

①, ② より,  $m^2$  を 4 で割った余りは 0 または 1 である.

(証明終り)

(2)  $25 \times 3^n = k^2 + 176. \quad \dots (*)$

自然数  $n, k$  が (\*) を満たすとき  $25 \cdot 3^n \geq 176$  より  $n \geq 2$ .

$n$  が奇数であると仮定すると

$$n = 2l + 1 \quad (l = 1, 2, 3, \dots)$$

と表せる. 以下, 合同式はすべて mod 4 とする.

$$\begin{aligned} \bullet 25 \times 3^n &= 25 \times 3^{2l+1} \\ &= 25 \times 9^l \times 3 \\ &\equiv 1 \times 1^l \times 3 \\ &\equiv 3. \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \bullet k^2 + 176 &\equiv k^2 + 0 \\ &\equiv 0 \text{ または } 1. \quad ((1) \text{ より}) \end{aligned}$$

よって, (\*) の両辺をそれぞれ 4 で割った余りが一致せず矛盾.

以上より, 自然数  $n, k$  が (\*) を満たすとき,  $n$  は偶数である.

(証明終り)

(3) (2) より  $n = 2l$  ( $l = 1, 2, 3, \dots$ ) とおける. このとき (\*) は

$$\begin{aligned} 25 \times 3^{2l} &= k^2 + 176. \\ (5 \times 3^l - k)(5 \times 3^l + k) &= 2^4 \times 11. \quad \dots \textcircled{3} \end{aligned}$$

$5 \times 3^l - k, 5 \times 3^l + k$  はともに整数であり  $5 \times 3^l + k > 0, k > 0$  より

$$0 < 5 \times 3^l - k < 5 \times 3^l + k.$$

さらに

$$5 \times 3^l + k - (5 \times 3^l - k) = 2k$$

なので,  $5 \times 3^l - k$  と  $5 \times 3^l + k$  の偶奇は一致する.

以上より, ③ を満たすものは

$$\begin{aligned} &(5 \times 3^l - k, 5 \times 3^l + k) \\ &= (2, 2^3 \times 11), (2^2, 2^2 \times 11), (2^3, 2 \times 11) \\ &= (2, 88), (4, 44), (8, 22) \end{aligned}$$

より

$$(5 \times 3^l, k) = (45, 43), (24, 20), (15, 7).$$

- $(5 \times 3^l, k) = (45, 43)$  のとき

$$(l, k) = (2, 43).$$

- $(5 \times 3^l, k) = (24, 20)$  のとき

これを満たす自然数  $l$  は存在しない.

- $(5 \times 3^l, k) = (15, 7)$  のとき

$$(l, k) = (1, 7).$$

$n = 2l$  であるから, (\*) を満たす自然数の組  $(n, k)$  は

$$(n, k) = (2, 7), (4, 43). \quad \dots (\text{答})$$

< (2) の別解 >

$$25 \times 3^n = k^2 + 176. \quad \dots (*)$$

自然数  $n, k$  が (\*) を満たすとき  $25 \cdot 3^n \geq 176$  より  $n \geq 2$ .

$n$  が奇数であると仮定すると

$$n = 2l + 1 \quad (l = 1, 2, 3, \dots)$$

と表せる.

このとき

$$\begin{aligned} 3^n &= 3^{2l+1} \\ &= 3 \times 9^l \\ &= 3 \times (8 + 1)^l \\ &= 3 \times \left( 1 + \sum_{m=1}^l {}_l C_m 8^m \right) \\ &= 3 \times \left( 1 + 4 \sum_{m=1}^l {}_l C_m 2 \cdot 8^{m-1} \right) \\ &= 4 \cdot 3 \sum_{m=1}^l {}_l C_m 2 \cdot 8^{m-1} + 3 \end{aligned}$$

と表せるので,  $3 \sum_{m=1}^l {}_l C_m 2 \cdot 8^{m-1} = Q$  とおくと  $Q$  は整数であり

$$3^n = 4Q + 3.$$

このとき, (\*) より

$$\begin{aligned} k^2 &= 25 \times 3^n - 176 \\ &= 25(4Q + 3) - 176 \\ &= 4(25Q - 26) + 3 \end{aligned}$$

であり,  $k^2$  を 4 で割った余りが 3 となるから (1) に矛盾する.

よって,  $n$  は偶数である.

(証明終り)